

静岡県精神保健福祉協会

News Letter -No.20-

巻頭言



「突風」に吹き飛ばされないように

静岡県精神保健福祉協会 常務理事

奥津 匡俊 (静岡県老人福祉施設協議会 副会長)

我が国は本格的な少子高齢構造に突入し、従前の社会保障や国家システムの再編が加速します。一方、産業革命をしのぐ規模と速さの技術革新が、社会を激変させ、私たちの生活を一変させます。

人口減少と労働力不足による経済収縮と失速を避けるべく、アベノミクスの成長戦略は公共政策の骨子に、生産性革命でGDP600兆円・子育て支援で出生率1.8人・高齢者の積極雇用で介護離職ゼロという新たな「3本の矢」を示し、社会保障を軸に成長と分配の経済の好循環を目指して、異例の速さで政策が推進されます。

福祉関係者としての懸念は、激変の時代に社会的な弱者が、更なる格差と新たなギャップを深刻化させることです。

今でも、障害の有無やライフステージにかかわらず、福祉サービスの利用者やご家族で、深刻な精神的な閉塞や苦悩に陥り、更には経済的破綻で生活困窮する方が居ります。

誰でも、生涯の各ステージで生活環境の変化を体験し、家族や近隣・学校・職場の人間関係や葛藤などで、自分自身の肯定的な感情や意味・居場所を見失い、容易に克服できないストレスに、心の健康を害することがあります。

社会全体が激変する時代では、障害者や高齢者の生活、介護や保育・子育てのご家族が、従前の期待される家族機能を低下させ、支援や援助の関係者も含めて、大勢の人々が精神や日常生活上の困難、ストレスや疾病等で深刻な状況に陥ることが心配されます。

地域社会全体で予防的な取組が重要で、特に精神保健と医療・福祉・教育が連携して、積極的に予防と啓発に当たる必要があります。

家族や近隣の仲間たちと、安心できる「居場所」や「よりよい関係」が作れるように、幼い頃からコミュニケーション能力や対人行動のスキルを育む教育や、困難に遭遇しても、自我や社会性の回復を支援できる地域のセーフティネットが大切だと考えます。

皆様とご一緒に、地域の活動に協力できれば幸いです。